

平成23年度
日本ドッジボール協会
関東ブロック中央研修会

日 時：平成 23 年 10 月 29 日(土) 30 日(日)

29 日 午後 13 時 開会

30 日 午前 9 時 開会

会 場：栃木県佐野市赤見町 2130-2

29 日 佐野市運動公園内 陸上競技場会議室

30 日 同 体育館

T E L : 0283-25-0403



◇ 関東ブロック中央研修会 スケジュール ◇

【1日目】 13：00～17：00

13：00～ 開講式《斎藤》

- ①挨拶 ②講師紹介 ③日程説明、諸連絡

13：15～ 審判員に求められるもの《斎藤》

13：30～ ルールブックの誤記・誤植の確認及びルール確認《斎藤》

14：00～ 統一基本動作指導内容《市川講師》

- ・実技統一事項・ゲーム等における統一事項について。

15：00～ 休憩

(資料準備)

15：15～ 事例解説、処理(対処)手順、ケーススタディ要領解説 《瀧谷講師》

【6班に分かれてグループ討議を行います。】

15：20～ グループ討議 《瀧谷講師・市川講師》

- ・グループ毎に「ケーススタディ」に関して議論し、結論と理由づけを集約する。

- ・グループ毎に集約結果を発表して頂きます。

16：50～ 連絡事項等 《斎藤》

- ①挨拶 ②諸連絡

(宿舎に移動後懇親会予定)

【2日目】 9：00～12：00

【3班に分かれてローテイションを行います。】

9：00～ 統一基本動作解説と実技指導 《濱谷講師、市川講師、齊藤》

- ・実技A（試合開始前の整列手順から、ジャンプボールまでの動作等）
- ・実技B（線審のアドバンテージ及びフラッグの使い方等）
- ・実技C（ヘッドアタック発生時の対応及び線審招集方法等）

11：30～ アンケート記入

（各自記入して提出をお願い致します。）

11：45～ 閉講式《齊藤》

- ① 挨拶 ②諸連絡

以上

平成23年度 一般財団法人・日本ドッジボール協会 中央研修会

公式ルールブック＆審判テキストブック【2011～2012年度版】

誤記・誤植 訂正箇所

ページ	箇所	誤記・誤植内容	訂正内容
2～3	インデックス	実技統一事項	「はじめに」
9	目次 第9章(ファール)	ファール(反則)	【参考:第901条相当箇所・(反則)の削除】
33	第803条 アタック ②	円筒型	円筒型 → 円筒型 【参考:P82・84の表記と統一】
55	ノータッチB解説	ノータッチ	「ツ」の削除
83	③ジャンパー・キャッチ C	～成立したものとする(競技規則・第914条でいう「自分がタップしたボール」とはこれをいい、身長差等による空振りもタップ行為とみなす)。	～成立したものとする(競技規則・第914条でいう「自分がタップしたボール」とはこれをいい、身長差等による空振りもタップ行為とみなす)。 【参考:取り消し線部を削除】
124～128	手順《例》	記録係	「係」→「員」に訂正(6箇所)
126	2)※	「失格」の事象が～大会会場から言い渡さなければならない。～	「失格」の事象が～大会会場から～ 【参考:「の退去を」追記】
128	4 「指導」を与える場合 2)副審・線審【手順】	⑥ボールの支配権を指示。 ⑦センター・ライン延長線上に戻り、タイムイン。	⑥、⑦共に削除

平成23年度 一般財団法人・日本ドッジボール協会 中央研修会

《JDBA: NEWSより抜粋》

「審判員に求められるもの」【自己研鑽】

審判員は、ルールブック＆テキストブックに記載されているルールや内容の習得はもちろんのこと、審判技術を身に付けていることやメンタル面の強さも兼ね備えていることも必要である。そして、選手がゲームをしやすい場の設定、つまり、ゲーム環境を整えるという大切な役割を担わなければならない。

そのために、日頃より、ルールブック＆テキストブックを読み、ルールや内容を理解することが重要である。また、個人の技術、コートに立つ6人の審判(チーム)としての連係の習得を図るために、常日頃より自己研修に努めなければならない。さらに、メンタル面の強さを身に付けるために、自らの心を磨き、感性を高めることが大切であり、審判員としての揺るがぬ自信をつけることも大切である。

コートに立つ審判員は、審判員としての心、技術、そして、選手に負けない体力、それらを身に付け、自信をもって毅然とした態度でジャッジしてもらいたい。

(指導部長・岩見喜市)

「審判員に求められるもの」【求められる資質】

私自身立場上、よく各方面の方々から「審判員にとって必要な“資質”とは何ですかねえ?」「審判“指導”的観点から、どう言った内容が最も重要なのでしょうか?」、等の質問や問い合わせを受ける機会に遭遇する事があります。指導と言う点に関しましては、指導を行なう側も同じ審判員ですので広い意味では「指導(者)」のスタンスも審判員の“資質”的一部に含まれると言っても過言ではないかと捉えております。

今回は、これらの内容や岩見指導部長の基本的概念および普遍的観念を受け、審判員に求められる“資質”と言った部分で、少しだけ私なりの考えについて触れさせて頂ければと思います。

殆どの場合、審判員がいなければゲームは成り立たないかと思います。審判員は試合の成否を決める重要な要素であると共に、ジャッジや判定がゲームの内容や勝敗の左右を担っており、選手と同じくらい欠かせない存在であると言えるでしょう。

また、それと同時に選手と一緒に試合に参加しながら、主役である選手の環境を良好にする事に従事し、プレイの判断に関わる存在でもありますので、何よりも『人間性』が重視される、と考えております。

つまり、言い換えれば「的確なジャッジとフェアプレーの推進を目的に、プレイヤーが安全に且つ自分の持つ能力を充分発揮できる様にゲームコントロールを行なう」と言う事と、日頃の審判活動からなる人格が、人々から『尊敬』される人でなければならない、と言った事こそ「審判員として求められる“資質”」の根幹に繋がってくるのではないかと、私自身は判断を

しております。

勿論、試合を安全且つ円滑にコントロールする(動かす)為に、選手同様、時には選手以上に高いレベルのテクニックを求められる役割なのかもしれませんので、トレーニング等を重ね、冷静・公正・的確で優れた判断力でジャッジを行ないプレイヤーにも観客にも納得のいく審判をしなければなりません。また、ゲームのレベルにもよりますが、かなりの持久力・スピードが求められますので、「体力」も必要不可欠になるかと思います。

やはり、これらの点に於きましても、更に追求しようと言う向上心や探究心を常に持ち、実行できる事が「求められる“資質”」の側面に値するかとも思っております。

次に、指導面に係わる内容ですが、研修会や講習会の指導現場を見ていて私自身がよく感じる事は、疑問等が生じた際に審判員(受講者)の殆どの皆さんには、自分の中での「答え」をそれなりに持っていると言う事です。ただ、その「答え」に自信を持てないのか、即アドバイスや指導を仰ぐと言った傾向に至っている様に伺えます。

見方を変えると、『正解(答え)があるのなら、早くそねを与えて(教えて)欲しい!』と言った姿勢や行為に捉えられる感を受けてしまう、と言った事になるでしょうか。《本質の良し悪しは別として、確かに手っ取り早いですからねえ・・・。》

そこで、ポイントになるのが指導者の役割や対処の仕方になるかと思います。

受講者より疑問や質問等を受けた際、当然ながら指導者の頭の中には「答え」が用意されているかと思います。更には、過去の経験や実績の中で培われたスキルに基づき、様々なケースに対応する各種の「引き出し」も持ち合わせているかと思います。

ここで、この「答え」や「引き出し」の中身を先に言う(提示する)のではなく、受講者が自らそれを導き出せる様にサポートを行なうのが、指導者の役割ではないかと私は考えております。前述の、手っ取り早い回答の提供だけだと形のみに捉われ、本来の目的意識が薄れるでしょうし、受講者本人も最終的に理解や認識をした上での技術習得に至らない様な気もしています。審判業務に対する考え方や、試合でのジャッジの理由等をじっくり聞きながら指摘やアドバイスを実施し、色々な状況を想定させ自分の頭で考えさせる中で、指導者が求める「答え」に導いて行く事が肝要ではないかと私自身は捉えています。

尚、導く上に於いては、「対話」によるコミュニケーション作りが最適ではないかと感じております。特に、受講者側と指導者側との「答え」に相違が生じた際、「対話」は最も有効なツールなるのではないかと思っております。

与えられたものではなく、自分の力で辿り付いた「答え」だからこそ納得できる(自信が持てる)ものとなり、本来の意味でのスキル(レベル)アップに結び付き、自身の技術力向上に対する『財産』に繋がるのではないかと、私は考えております。

最後に、今後を担う(上を目指す)審判員の皆さんにメッセージを・・・。

◆新しい理念や考えに対して心を開き、寛容であって下さい。

◆何時でも、どんな時でも人間性・誠実さを高く掲げて下さい。

◆「ラッキーな奴だ」と仲間を羨まないで下さい。次は、貴方に巡って来るかもしれません。

◆仲間の審判員の目標に近づく手助けをする、と言う姿勢やスタンスを忘れないで下さい。

それは、きっと貴方自身の目標にも近づく事になるでしょう。

(競技委員長・中野誠司)

「審判員に求められるもの」【基本と統一事項】

「審判員に求められるもの」に対する基本的な考え方は、それぞれですが、審判員として携わる活動の上に於いて、お二人の思いは、非常に大切な部分であると私も同感しております。指導と言う点に関しては、指導を行なう側も同じ審判員ですので、広い意味では「指導者」の日頃の活動の取り組み等も含め審判員の“資質”的一部に含まれるのではないかと思います。では、「審判員としてなにが大事か?」と言いますと、それは、「基本」ということです。では、なぜ基本なのかということになりますが、「指導者」として指導する場合に、基本とされるものと全く違った事を教えた場合にどうなるのかを考えてみてください。指導者を信じ、教わったことを忠実に行なったが、実は全く受け入れてもらえないと言うことになります。全国9ブロックでの研修会も今年で2回目となります。全国大会でそれぞれ、拝見させていただき、今までとは違はずいぶんと統一されてきたと感じます。しかし、まだまだローカルと言いますが、JDBAが推奨している基本と違う事をされている方々がおられるのも事実です。今回の統一事項も含め、これからも開催される研修会で伝えた基本とされるものを、自身の身体にしみこませ、全国各地で行われる大会、研修会で全審判員が、統一されたジャッジをしていただくことが、この研修会を開催している大きな目的であることを理解していただき、夏・春の全国大会では、全員が統一された見解、ジャッジで大会が行われることを願っております。

話題は替わりますが、最近、特に残念に感じていることがあります。それは、審判員としてもっとも基本とされる、「声」「笛」が小さいと言うことです。プレイヤーに伝わらない、届かない声、笛は無いに等しいと言うことを、認識してください。大きな声、大きな笛の音が出ないのであれば、出るよう努力してください。練習してください。そして、なぜ大きな声、大きな笛の音が必要なのかを考えてください。

最後に、よく「子供のため」という言葉を聞きますが、それは、ある意味いいわけにしているということかもしれませんよね。自身の審判技術向上のために練習する、大会に参加し経験値を上げるという事は、全て自身のためであるということを前提に考え、つまりは、それが選手たちにとって最高のゲームを提供することにつながると言うこと!それが、【子供たちのため】ということです。

自身の審判の技術向上のため、今回の研修会で得たものを、今後の活動に活かしていただけたら幸いです。

(審判部長・前田裕史)

審判員に求められること

1 なぜ審判をしているの？

森理事長の講演会テキストブック P44~49

2 審判技術について

(1) 個人として

① 体調管理

選手に負けない体力づくり、動体視力

② ルールの習得

ルールブック、テキストブックは絶対！ 補助資料等

③ ルールに伴った正しい判断

プレーを把握し、ルールに照らし合わせた素早い判断

④ ジャッジ（動作、コール、笛等）

動作、コール → ルールブック・テキストブック通り

姿勢、指先へのこだわり

落ち着かせる言い方（語尾）

笛 → 3種類の使い分け、音を切る（こだわりを持って）

⑤ ゲームコントロール

サッカーは最初の10分間、ドッジは？

⑥ 選手の特徴、チーム戦術の把握

アタッカー、レシーバー等の理解、チームの攻撃パターン

⑦ ポジショニング、姿勢

選手の動きを予測した心の準備

ボールの近くで、見やすい場所への俊敏な移動、3つの目線

背筋を伸ばした姿勢

⑧ 基礎基本を理解した上でのオリジナリティー

(2) 6人の審判（チーム）として

① 自分の役割の遂行

主審、副審、線審の役割分担は？

② ブラインドをつくらない連携

試合前、ポジショニングの打ち合わせ（特に主審と副審）

③ アイコンタクトをとったときの対応

試合前の打ち合わせ、サインの確認

④ タイムをかけない工夫（どうしてもかけなくてはならないタイムは別）

試合の流れを切らない

タイムをかけた時 → 全員、素早く集合 1回で協議

(3) 審判団として

① ジャッジの一貫性

判定基準の明確化。全員が同じ基準で！（パス等）

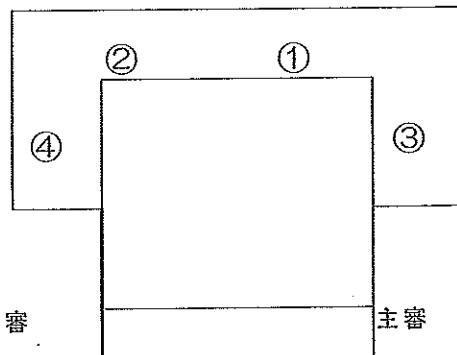
② 選手、監督、チーム関係者から信頼される振る舞い

気配り、目配り、心配り → 気づき

(4) ポジショニングについて

① 主審

- ・ 内野からの投球時 主審が絶対！ 副審に振らない！
- ・ 外野からの投球時
 - ① バックライン主審側から
 - ② バックライン副審側から
 - ③ サイドアタック主審側から
 - ④ サイドアタック副審側から



② 副審

- ・ 内野からの投球時 センターラインを死守！
- ・ 外野からの投球時
 - ① バックライン主審側から
 - ② バックライン副審側から
 - ③ サイドアタック主審側から
 - ④ サイドアタック副審側から

③ 線審

- ・ 内野からの投球時
- ・ 外野からの投球時 (奇数、偶数線審)
 - ① バックライン主審側から
 - ② バックライン副審側から
 - ③ サイドアタック主審側から
 - ④ サイドアタック副審側から

3 メンタル面について

(1) 審判員としての信頼

- | | |
|-----------|-----------------------|
| ① 公正・公平 | 選手、チームに対して |
| ② 人間関係づくり | 意欲旺盛、張り切りすぎに注意「人を生かす」 |
| ③ 向上心 | 選手のため、自分のために上を目指す！ |

(2) 心を磨く

日ごろから感性を磨く（五感を磨く）
それが試合での気づきに！ 「んっ？」 「あれっ？」

(3) 平常心

審判としての心	心	— 審判としての自信
ルールの理解、審判技術、技能	技	
選手に負けない体力	体	

(4) ジャッジミス

起こるべきもの → 気持ちの切り替え、帳尻合わせは絶対ダメ！
他審判員のジャッジミスの発見

慌てずに、状況判断。オフィシャルタイムアウトの要求

(5) レアケース

すぐに判断できない→オフィシャルタイムアウトの要求→審判6人で協議
コートマスターに要請

4 その他

(1) 審判員の役割

- ① 審判員の育成、支援、援助、指導
- ② チームに対するマナー指導

(2) ドッジボールというスポーツの価値を高めるのも、審判員の役割

審判員の連携

1 アイコンタクトの技術

アイコンタクトの活用 他審判員が見てくれないという不安

↓

「眼力（がんりき）」 目から→を出すつもりで

2 アイコンタクトをとったときの対処（「あん」「うん」の間合い）

試合前の打ち合わせ、同じコート内で共通理解を図っておくことも大切

(1) 主審→副審 副審→主審

① パスの確認時

試合前の打ち合わせで、主審に言われた場合のみ目立たないようなジェスチャーで知らせる。

※パスの決定権は、主審！（副審主導にはならないように！）

② アタック確認

◎ 基本的にアイコンタクトをとった場合は、副審に判定を委ねてもOK！

副審「ピッ、〇番アウト」

※副審がコールした後、主審は復唱しなくてよい

○ 主審→副審

副審がジェスチャーをして主審に知らせた場合

主審「ピッ、〇番アウト」

○ 副審→主審

・ 副審がジェスチャーをして主審に知らせた場合

主審「ピッ、〇番アウト」

・ 主審が気づかない場合、副審が判定してOK！

ただし、10人中10人が当たったと判定できる場合のみ

副審「ピッ、〇番アウト」 ※副審がコールした後、主審は復唱しなくてよい

※ ②については、主審と副審の連携を十分に図ること。

(2) 主審→線審 線審→主審

① アタック確認

・ 試合前の打ち合わせ通り

・ 主審が気づかない場合、ボールが落ち着いたところで、タイムの要求

(3) その他

線審 ⇄ 線審

3 その他

審判員を育てるために大切なこと

① 審判は楽しい

② 成就感を味わえる

③ 自分が必要とされている

と、感じられること

↓

審判の世界に入り込んでいく条件

平成23年度 一般財団法人・日本ドッジボール協会 中央研修会

《統一基本動作 実技内容》

【A 実技】

1 試合開始前の整列から、ジャンプボールまでの動作（手順）

（1）整列時の確認手順

- ・主審 記録用紙のチーム名を各チームの「選手番号 1」のプレイヤーに確認する
- ・線審 2, 3 選手のテーピング、ヘアピン等の危険物、靴ひも等の確認
なお、テーピング等の確認は、手の裏表を交互に見せるようなことはせず、指を広げ静止した状態で確認する
- ・整列隊形の位置、コートへの挨拶（P 103）①②参照

（2）主審、線審 1, 4 3人の移動

主審は、線審 1・4 に対し簡単に合図をし（方法は自由）揃って移動する

（3）主審 動作、吸笛、コール 「ピィー、集合」

（4）線審 2, 3 なるべく揃って選手を率いて移動

（5）主審 整列時の発言から、セットアップ動作まで

例「これから 5 分 1 セットマッチ、ランニングタイム制の試合を始めます。」「キャプテン同士握手」 セットアップ動作（P 67）

（6）線審の移動の仕方

コートに入らず、コートの外側を通って、位置に移動する。

（7）主審、副審 選手人数の確認方法

プレイヤーの近くで、静止した状態で内野人数、外野人数（合計 12 名）を主・副ともに確認する

（8）主審 ジャンプボールの動作、コール 副審 ボールの渡し方

（9）試合開始前の確認

主審 線審 1～4、副審、オフィシャルへの動作と吸笛（P 129）

線審 主審の動作と吸笛に合わせた旗の挙げ方と降ろし方のタイミング

《主審の確認があるまで副審・線審（旗を下に向け）とともに、気をつけの姿勢》

副審は主審の笛の合図があつてから手を挙げ（左右どちらでも良い）、次の笛の合図で降ろす。

線審は主審の笛の合図があつてから旗を挙げ、次の笛の合図で降ろす。

(10) 主審、選手番号の確認と副審とのアイコンタクト

(11) ジャンプボール

主審、トスアップと笛のタイミング

副審の姿勢と注視するポイント

【B 実技】

1 線審 アドバンテージ動作

(1) 線審ファール視認、アドバンテージ解除方法

線審 ファール視認

アドバンテージ動作 旗を肩の高さまで挙げ、選手を指す

ボールの行方を見て、アドバンテージ解除

(2) 線審ファール視認、ファール確定

線審 ファール視認

線審 アドバンテージ動作 旗を肩の高さまで挙げ、選手を指す

ボールの行方を見て、ファール確定 ジェスチャー、吸笛、コール

主審 ジェスチャー、吸笛、コール、支配権の指示

線審 支配権の指示動作が終わるまで、ファールジェスチャーをしておく

2 線審 オフィシャルタイムアウト時の動作

(1) ①オフィシャルタイムアウトを要求した線審

旗を振りながら、吸笛、コール、全力疾走で、センターサークルに行く

②その他の線審の動作

両腕を肩の高さまで挙げ、旗をひろげ、外野選手をその場に座らせる

選手をその場に座らせた後、全力疾走で、センターサークルに行く。

(2) 主審又は主審に依頼された副審に招集された場合

1. 両腕を肩の高さまで挙げ、旗をひろげ、外野選手をその場に座らせる。

2. 両腕を肩の高さまで挙げ、旗をひろげた状態でセンターサークルを注視する。

3. 主審からの招集確認後、全力疾走で、センターサークルに行く

4. 協議終了後は、走って定位置（P 103 ④参照）に戻る。

【C 実技】

1 ヘッドアタック発生時の対応及び線審招集方法、タイムイン P101まで

ヘッドアタックの対処は、P121, 131 参照

(1) ヘッドアタック発生時の主審の対応

(2) オフィシャルタイムアウト時に主審及び副審が、線審を集める合図

手を挙げ、手のひらを線審に向ける。(右手・左手どちらでもよい)

(3) 緊急プレイヤーとの交代 (P131～P132)

(4) 主審、副審のタイムインの位置

ルールブックに記載されている試合開始の定位置 (P103④参照) で行う。

平成23年度 一般財団法人・日本ドッジボール協会 中央研修会

《 ケーススタディ 》

事例 1 :

「アウトプレイ状態（外野エリアで）」のプレイヤーに対し、外野プレイヤーがアタック、「アタックが成功」したが、跳ね返ってきたボールがアタックしたプレイヤーに「直接当たった。」場合、外野プレイヤーは内野に復帰出来るのか？

事例 2 :

BチームのプレイヤーにアタックされたAチーム内野プレイヤーがキャッチ出来ずにボールが空中にある（アシストキャッチ出来る状況にある場合）間に、Bチーム外野プレイヤーが手でボールを弾き（ボールタッチ）直接「アウト・オブ・バーンズ」となった場合、
Aチーム内野プレイヤーは「アウト」になるのか？またボールの支配権はどのようになるのか？